

=== T A C S 情報 第3号 ===

(Toyama Agricultural Cultivation Management Information System)

令和8年6月9日

農業技術課 広域普及指導センター

1 気象経過

(1) 気温

5月の平均気温は、19.5℃（対平年差+2.0℃）と平年に比べかなり高かった。

6月1半旬の平均気温は、22.9℃（同+2.9℃）と平年に比べかなり高かった。

(2) 降水量

5月の降水量は、89.0mm（対平年比72%）と平年並であった。

6月1半旬の降水量は、22.5mm（同181%）と平年に比べ多かった。

(3) 全天日射量

5月の平均全天日射量は、21.2MJ/m²/日（対平年比115%）と平年に比べかなり多かった。

6月1半旬の平均全天日射量は、17.6MJ/m²/日（同90%）と平年に比べ少なかった。

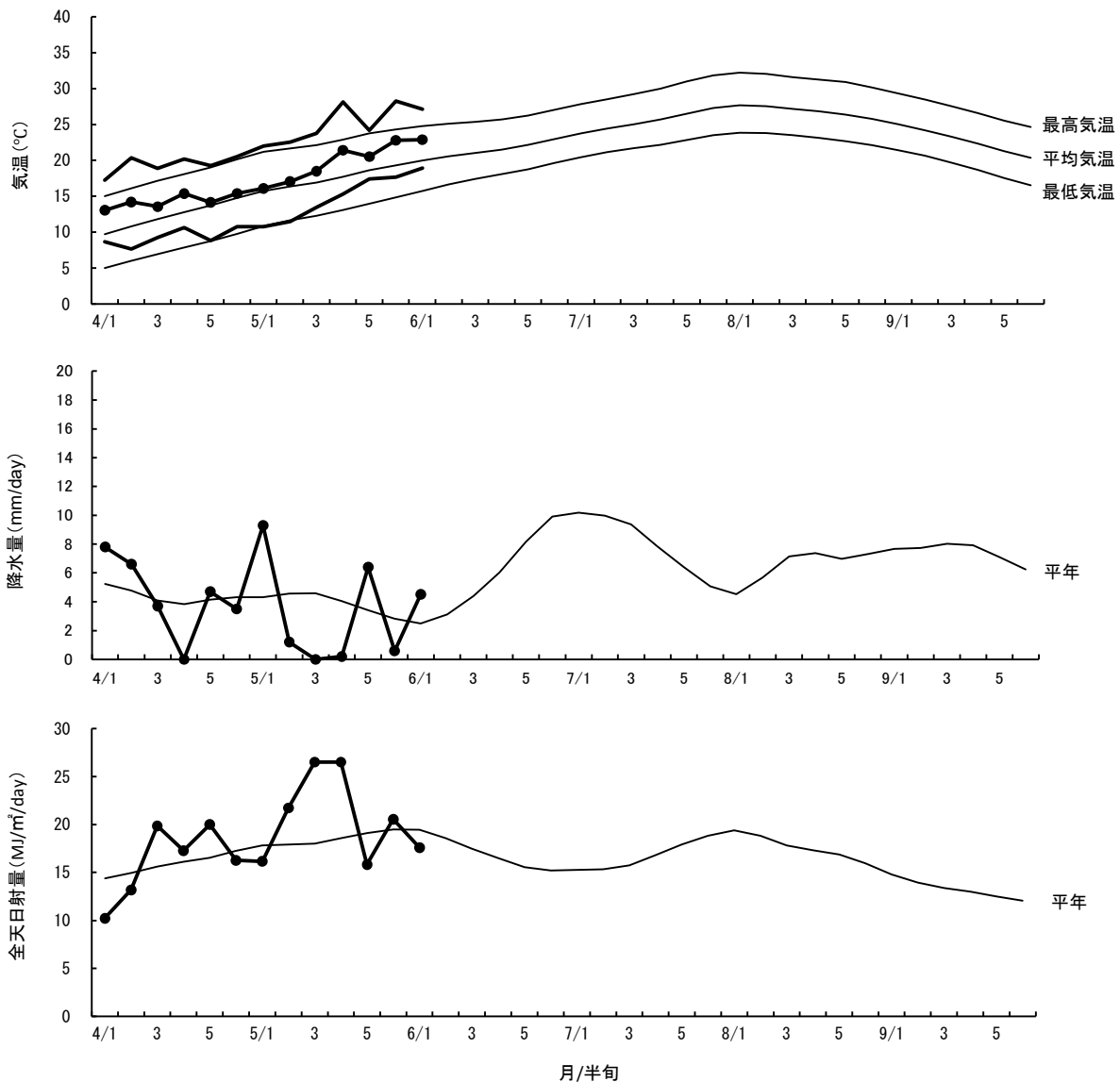


図1 令和8年の気象経過（富山地方気象台）

2 生育状況（生育観測ほデータ）

（1）富富富

近年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は並、葉齢は0.5葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、近年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は並となっている。

表1 「富富富」の生育状況（6月9日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	5月17日	31.0	16.1	362	7.5	4.3	40.5
R7	5月17日	25.7	8.9	195	6.4	4.3	36.4
近年	5月15日	27.4	12.2	263	7.0	4.3	38.6
前年比・差	0	121	182	185	1.1	0.0	4.1
近年比・差	2	113	132	138	0.5	0.0	1.9

注) 近年：H29～R7の平均

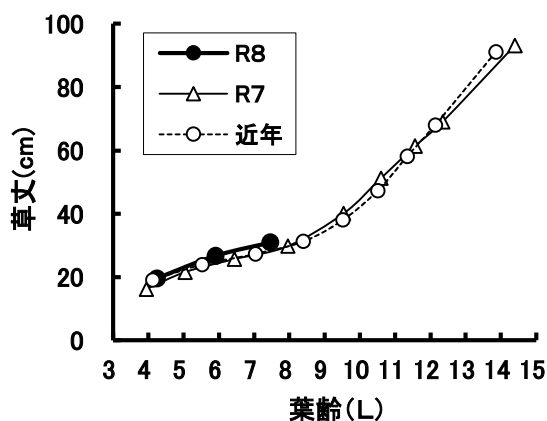


図2 草丈の推移（生観富富富）

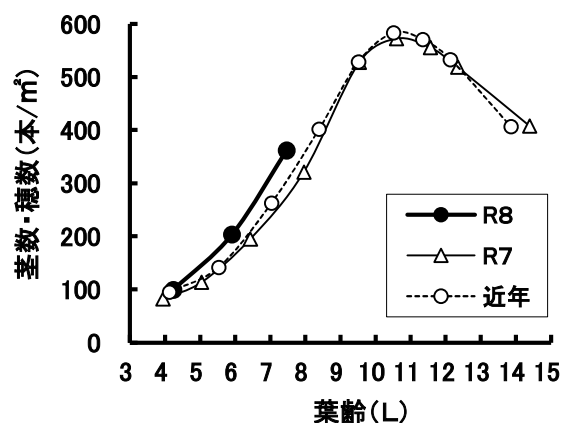


図3 茎数の推移（生観富富富）

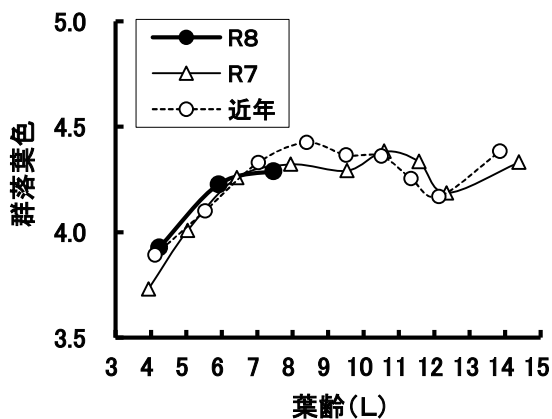


図4 葉色の推移（生観富富富）

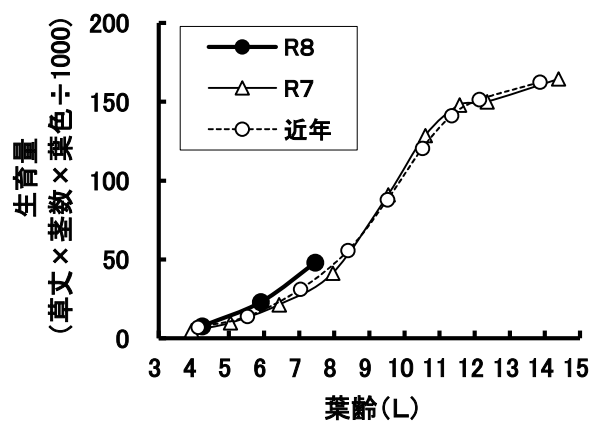


図5 生育量の推移（生観富富富）

(2) コシヒカリ

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は並、葉齢は0.8葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数はやや多く、葉色は並となっている。

表2 「コシヒカリ」の生育状況（6月9日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD
R8	5月13日	35.2	18.9	402	8.1	4.2	39.2
R7	5月13日	29.1	13.4	288	7.3	4.2	36.9
平年	5月14日	30.4	13.4	293	7.3	4.3	37.7
前年比・差	0	121	141	140	0.8	0.0	2.3
平年比・差	-1	116	141	137	0.8	-0.1	1.5

注) 平年：H28～R7の平均

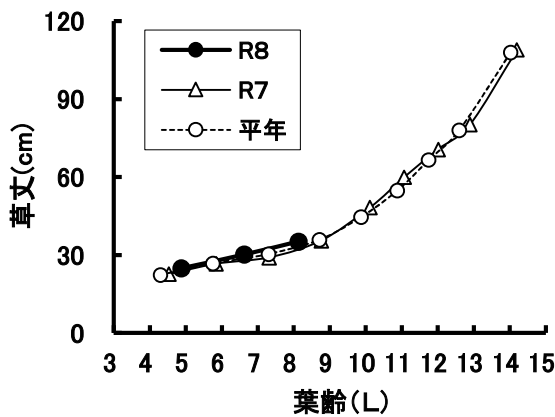


図6 草丈の推移（生観コシヒカリ）

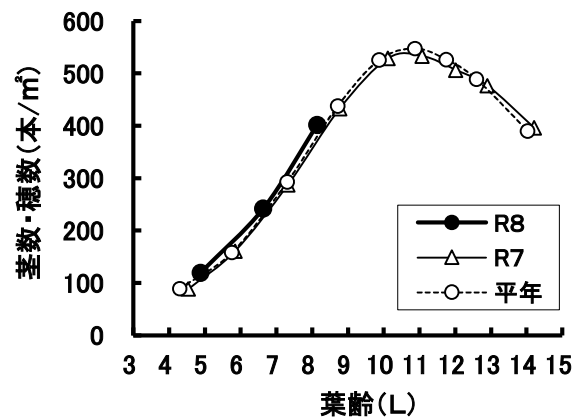


図7 茎数の推移（生観コシヒカリ）

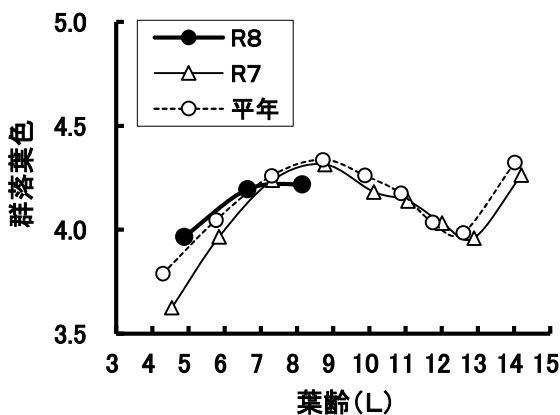


図8 葉色の推移（生観コシヒカリ）

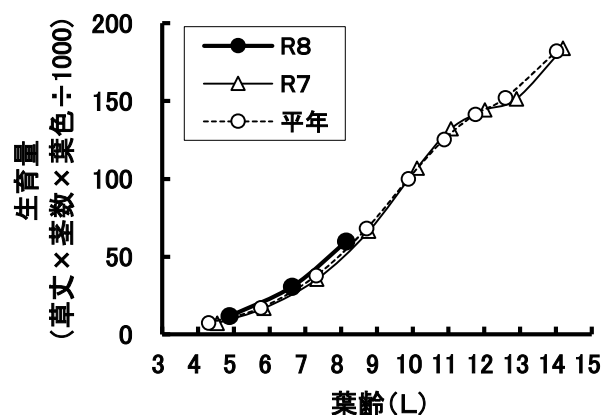


図9 生育量の推移（生観コシヒカリ）

(3) てんたかく

平年に比べ、草丈はかなり長く、茎数はかなり多く、葉色は並、葉齢は 1.0 葉進んでいる。

葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数は並、葉色はやや淡くなっている。

表3 「てんたかく」の生育状況（6月9日 生育観測ほ）

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/㎡)		葉色板	SPAD
R8	4月29日	44.5	29.8	621	9.9	4.4	40.8
R7	4月30日	31.3	21.7	445	8.8	4.5	40.1
平年	5月1日	32.0	21.1	450	8.9	4.5	41.2
前年比・差	-1	142	138	139	1.1	-0.1	0.7
平年比・差	-2	139	142	138	1.0	-0.1	-0.4

注) 平年：H28～R7の平均

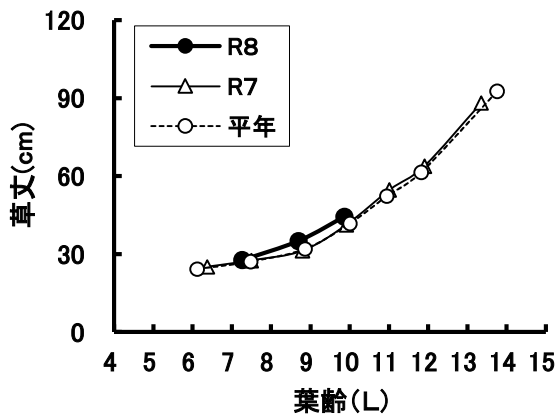


図10 草丈の推移（生観てんたかく）

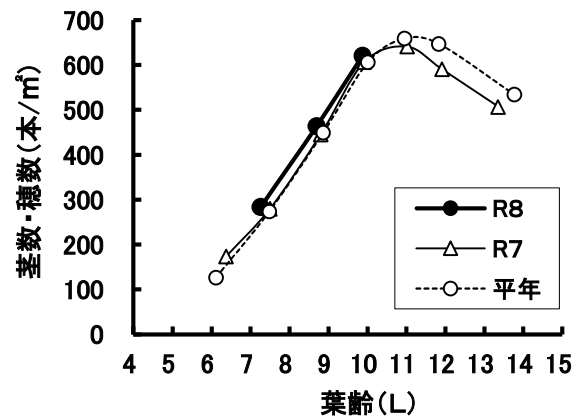


図11 茎数の推移（生観てんたかく）

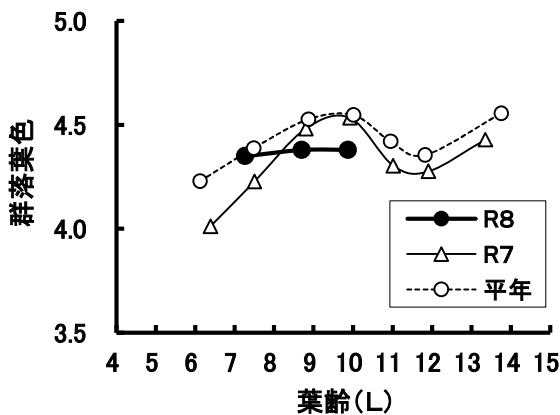


図12 葉色の推移（生観てんたかく）

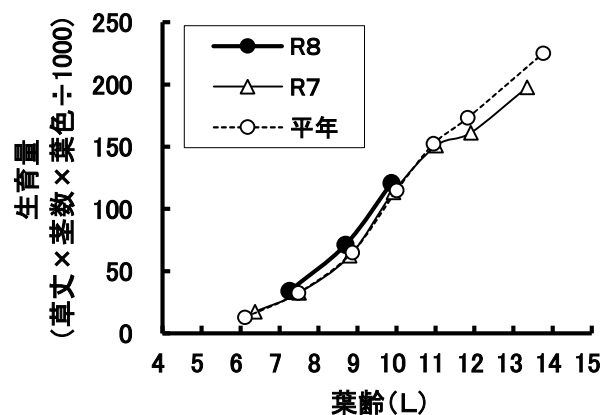


図13 生育量の推移（生観てんたかく）

(4) てんこもり

平年に比べ、草丈は長く、茎数はかなり多く、葉色は並、葉齢は0.7葉進んでいる。
 葉齢を揃えて比較すると、平年に比べ、草丈はやや長く、茎数、葉色は並となっている。

表4 「てんこもり」の生育状況(6月9日 生育観測ほ)

年次	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	
			(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD
R8	5月9日	31.2	23.8	475	9.1	4.4	39.9
R7	5月12日	24.0	12.2	239	7.4	4.3	36.8
平年	5月9日	27.0	20.0	381	8.4	4.4	39.8
前年比・差	-3	130	195	198	1.7	0.1	3.1
平年比・差	0	115	119	125	0.7	0.0	0.1

注) 平年：H28～R7の平均

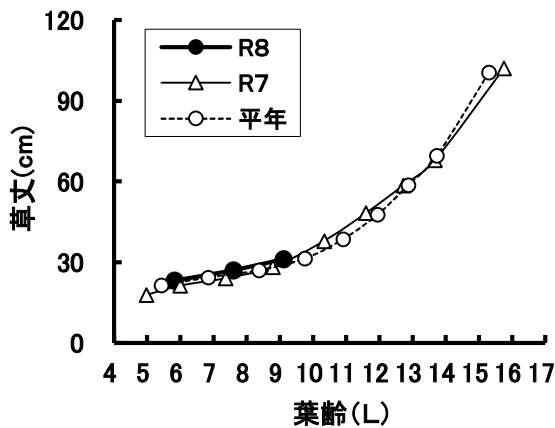


図14 草丈の推移(生観てんこもり)

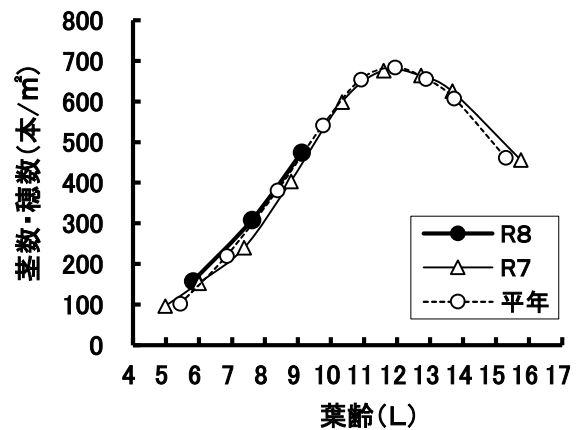


図15 茎数の推移(生観てんこもり)

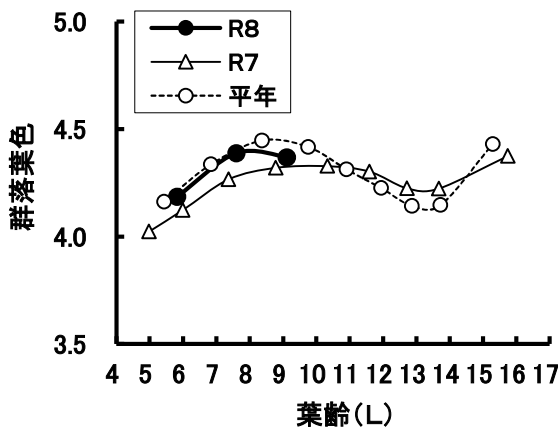


図16 葉色の推移(生観てんこもり)

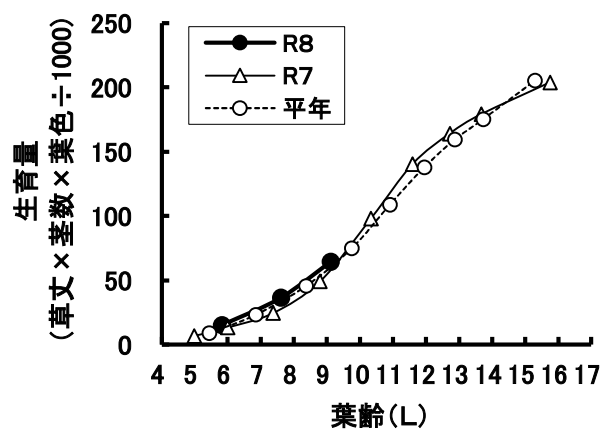


図17 生育量の推移(生観てんこもり)

3 当面の技術対策

- ・ 中干し開始時期の目標茎数を超えていることから、早急に中干しを開始する。
- ・ 葉色の低下を防ぐため、中干しとその後の間断かん水では、落水期間が長くなり過ぎないように注意し、適正な土壌硬度に誘導する。

(1) 早急な中干しと中干し後の間断かん水の実施

- ・ いずれの品種も中干し開始時期の目標茎数（目標穂数の8割）を超えている。過剰茎数による急激な葉色低下が懸念されることから、早急に中干しを開始する。
- ・ 中干しに合わせて、溝掘りを確実に実施する。
- ・ 中干し後は間断かん水を行い、葉色の急激な低下を防ぐ。

(2) 適正な水管理による葉色低下の防止

- ・ 中干しは、「田面に小さな亀裂が入る程度」の田干しを数回行い、中干し終了時にほ場中央部でくるぶしまで沈む程度（足跡深さ8~10cm程度）の土壌硬度にする（図18）。
- ・ 中干し後は間断かん水を行い、徐々に地耐力を高め、幼穂形成期頃までに足跡深さ3cm程度の土壌硬度とする。
- ・ 土壌を乾かし過ぎると葉色が低下するため、中干しや間断かん水では落水期間が長くなり過ぎないようにする（図19）。
- ・ 近年、「富富富」においても高温による葉色の低下がみられることから、間断かん水時は「コシヒカリ」と同様の管理を行う。



図18 中干し終了時点のほ場の状態

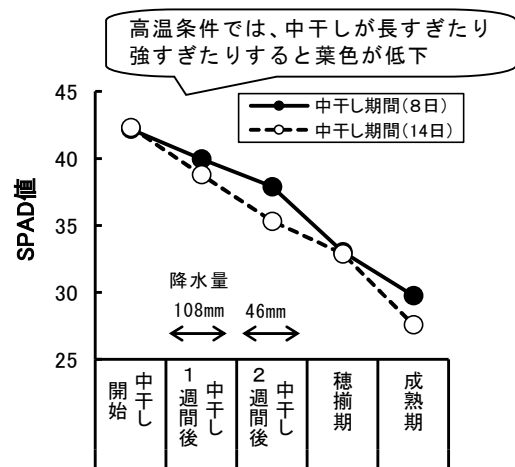
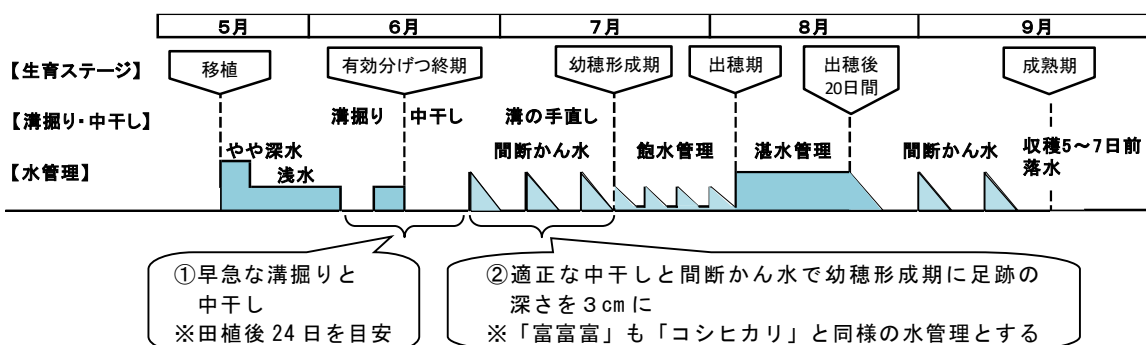


図19 中干し期間を長くした場合の葉色の推移 (R6新川農林振興センター)
注) 沖積砂壤土、品種「コシヒカリ」での結果

<今後の水管理のイメージ>



(3) 病虫害防除の徹底

①斑点米カメムシ類

- ・ 昨年の発生量が多く、春先からの高温により、畦畔や雑草地における越冬後の斑点米カメムシ類の発生がかなり多くなっている。
- ・ 今後、高温が予報され、カメムシ類の発生量が多くなると見込まれることから、イネ科雑草が出穂しないように草刈り等、畦畔・雑草地の除草対策を徹底する。

〔 草刈り運動期間：6月26日（金）～7月5日（日）
一斉草刈り日：6月27日（土）～6月28日（日） 〕

- ・ 本田内のノビエやホタルイは斑点米カメムシ類の繁殖源となるため、水田内雑草の発生状況に注意し適切な除草対策を行う。
- ・ 麦あとほ場はカメムシ類の繁殖好適地となるため、雑草が繁茂しないように管理するとともに、積極的に大豆や園芸作物、緑肥等を栽培する。

②イネミズゾウムシ

- ・ 発生がみられる場合は要防除水準（本田発生盛期の寄生成虫密度 3頭/10株）に基づき防除要否を判定し、速やかに防除する。
- ・ 幼虫の密度を抑えるため、適期に中干しを確実にを行う。

③ニカメイチュウ（越冬世代成虫の発蛾最盛期 平年：5月29日、R7：5月23日）

- ・ 箱施薬剤を施用していないほ場や直播栽培で種子に殺虫剤を塗沫していない場合は、要防除水準（防除時6月中旬のさや枯最盛期被害茎率：3%）に基づき防除要否を判定し、適期に防除する。
- ・ 前年に被害が多く見られた地域では、幼虫の発生がだらつくため、箱施薬剤を施用した場合でも要防除水準を超える場合は本田防除を行う。

④いもち病（葉いもちの初発確認日 平年：7月9日、R7：7月2日）

- ・ 本田内の補植用苗はいもち病の発生源となるので、早急に取り除き処分する。
- ・ 箱施薬剤等を施用していない場合は、予防粒剤（抵抗性誘導剤）を6月中旬頃までに散布する。
- ・ BLASTAM情報（農業研究所）を参考に常発地を中心に巡回し、葉いもちの発生がみられたら直ちに防除する。



⑤紋枯病（紋枯病の初発確認日 平年：6月27日、R7：7月3日）

- ・ 前年多発したほ場等では、出穂3～4週間前の粒剤散布や穂ばらみ期の防除を行う。
- ・ 本田防除は要防除水準に基づき防除要否を判定し（表5）、適期に薬剤が株元に付着するように散布する。
- ・ 箱施薬剤と本田防除の体系防除を行う場合は、同一系統薬剤を連用しない。

表5 紋枯病の要防除水準と薬剤散布適期の目安

品種	要防除水準 (発病株率)	薬剤散布適期 (防除要否判定時期)
てんたかく	5%	出穂14日前頃
コシヒカリ・富富富	15%	出穂10日前頃
てんこもり	15%	出穂7日前頃

※てんこもりは暫定値